

「平和は武力でつくれない」

防衛費大幅増に異議 僧侶ら行進

増税を伴う防衛費の大幅増を狙う政府方針に異議を唱える行進と集会が8日、東京都内であった。国内外に多くの犠牲を出した太平洋戦争の開戦から、この日で八十一年。「武力で平和をつくる」とはできない」。参加者はかつての悲惨な教訓を胸に、口々に訴えた。

(加藤益丈)

太平洋戦争開戦から81年

「トン、トン、トン」。太鼓を打つ軽快な音とともに「南無妙法蓮華経」の題目を唱える五人の僧侶が、前八時半に東京都中央区の道場を出発、「平和行進」と銘打って、国会議事堂まで約六キロの道のりを歩いた。

黄色い袈裟に身を包んで先頭を歩くのは、日蓮宗系の日本山妙法寺の尼僧、矢

向由季さん(50)と千葉県成田市。行進に先立つ今月の五日間、食べ物や水を一切口にしない断食・断水の修行をしながら、朝から夕方まで国会前で憲法九条順守や「敵基地攻撃能力(反撃能力)保持反対」を願ってきた。

「通りがかりに供養(お供え)を置いていく人が多い。同じ思いの人がたくさんいる」。そう感じた後の、この日平和行進だった。ちょうど釈迦が悟りを開いたとされる日。それを祝う行事「成道会」を終えてから信徒四人と歩き始め、二時間近く



題目を唱えながら国会前を歩く矢向由季さんら。8日、東京都千代田区の国会前で



講演する杉原浩司さん。8日、東京・永田町の参院議員会館で

東京・永田町の参院議員会館では8日、「平和をつくり出す宗教者ネットワーク」などが敵基地攻撃能力の保有や軍事費増を目指す政府を批判する集会を開いた。市民団体「武器取引反対ネットワーク(NAJAT)」

「踏み込むべきは軍縮」永田町で集会

の杉原浩司代表は「抑止力を高めても無限の軍拡競争にしかならない。踏み込むべきは軍縮だ」と訴えた。杉原代表は、防衛力強化や防衛費増額を巡る政府・与党の議論を危ぶむ研究者らでつくる「平和構想提言会議」のメンバー。日本が敵基地攻撃能力としてミサイルを増やしても、中国がミサイルを増やすことにつながるとして「軍縮協定に中国を引き込み、戦争を起こさない仕組みをつくるべきだ」と主張した。九日午後六時半からは、NAJATなどが参加して官邸前で「軍拡反対」の抗議活動を行う。

1 面目次

「武力で平和つくれない」訴え 24



増税を伴う防衛費の大幅増を狙う政府方針に反対する声が、東京都内で響いた。「武力では平和をつくれない」